

**【報告】**

## ・【CIEC 第 124 回研究会報告書】

テーマ：「オンライン教材における著作権の扱い」について

開催日：2021 年 1 月 5 日(火) 14:00-16:00

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

主催：小中高部会・オープンエデュケーション部会共催

## ・【CIEC 第 125 回研究会報告書】

テーマ：求められる新教育スタイルとポストコロナへの展望 -中国と日本の状況-

開催日：2021 年 3 月 27 日(土) 14:00 (日本時間)-16:30 (日本時間)

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

主催：国際活動委員会主催 小中高部会共催

## ・【第 1 回 CIEC サタデーカフェ】

テーマ：ICT 活用実践事例集「まなびの旅」の制作について

開催日：2021 年 4 月 17 日(土) 20:00-21:00

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

主催：小中高部会

## ・【第 2 回 CIEC サタデーカフェ】

テーマ：「BYOD への長い道のり」

開催日：2021 年 5 月 15 日(土) 20:00-21:00

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

主催：小中高部会

**【CIEC 第 124 回研究会】****【開催概要】**

テーマ：「オンライン教材における著作権の扱い」について

開催日：2021 年 1 月 5 日(火) 14:00-16:00

会場名：ZOOM によるオンライン開催

共催：小中高部会・オープンエデュケーション部会共催

**【プログラム】**

13:30-14:00 受付

14:00-14:05 開会の挨拶

平田義隆(小中高部会部会長：京都女子中学校高等学校)

14:05-14:40 講演(1) 授業目的公衆送信補償金制度創設の経緯

江口悦弘氏(日経 BP PC メディア編集部編集長)

14:40-15:15 講演(2) オンライン授業と著作権

芳賀高洋氏(岐阜聖徳学園大学)

15:15-15:30 休憩

15:30-16:00 質疑応答

16:00-16:05 閉会の挨拶

平田義隆(小中高部会部会長：京都女子中学校高等学校)

**【開催趣旨】**

新型コロナウイルス感染症の影響により、各校では休校を余儀なくされた。その結果、児童生徒への学びを止めないため、教育活動に様々な工夫が凝らされた。中でも多く見られたのは、Web 会議システムである zoom を用いたオンライン授業や、Youtube に代表される動画配信形式の授業である。しかし、上記形式の授業を行う際には、インターネットを介しての配信となるため、教材作成において著作権に関しては、より一層の注意が必要になってくる。学校教員は授業での著作物の利用において特例として認められている行為が多く、その感覚で動画配信授業などを行うことはとても危険である。そこで本研究会では、コロナ禍が続く中、インターネットを介した教材を中心に、改めて著作権について確認をし、今後の教育活動において、注意すべき点等について理解を深めていきたいと考えている。

**【開催報告】**

はじめに、小中高部会長の平田義隆氏より開催挨拶と趣旨説明があった。この中で、申込人数が定員を超える約 50 名であることが報告され、今回のテーマが多くの方に

関心を持たれていることを表している。また、司会の森棟隆一氏より、当初発表されていた講演の順番を入れ替えることの説明があった。

#### 講演 1 江口悦弘氏：授業目的公衆送信補償金制度創設の経緯

江口氏からは、日頃取材をしている立場から授業目的公衆送信補償金制度について解説をいただいた。

教育現場において、この制度は著作物を利用するたびに許諾を得る必要がない、利用許諾を得られないことがない、著作権を侵害することで損害賠償を求められたり学校の評判が落ちたりする恐れがなくなる、補償金の届け出を個々の教員ではなく学校の設置者が行うなどと言ったメリットがあることの説明があった。また、補償金を徴収することに対する批判もあるが、そもそも異時公衆送信では他人の著作物を利用する場合には許諾が必要で、場合によっては利用料の支払いも求められるため、保証金制度はこの問題も解決することができることについても述べられた。

また、昨年12月に公表された「改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）」について説明があった。ここでは「学校その他の教育機関」「授業」「授業形態」「必要と認められる限度」についての詳細について解説があった。

最後に、取材に基づいた授業目的公衆送信補償金制度の今後の動きや課題について説明があった。

特に、今年の4月1日以降に届け出の窓口を開設し、手続きをした学校の設置者名を公表すること、今後教育機関に対する著作物の利用に対するサンプル調査があるためその準備が必要であることがあげられた。また、著作権に対する意識や知識が足りずに正しく著作物を利用できていない教員が多いのではないかと懸念されるが、その一方で違反をチェックする仕組みもないことについて意見があった。

#### 講演 2 芳賀高洋氏：オンライン授業と著作権

芳賀氏は ICT CONNECT 21 普及推進 WG 学習資源利活用促進 SWG リーダーを務められていて、また「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」の初中等 WG の幹事を務められている。

今回は教員志望の学生や年数の浅い教員に対する、教員養成の立場でお話をいただいた。

まず「改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）」の用語定義における「必要と認められる限度」「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」について説明があった。ここで、「授業のために必要かどうか」は第一義的には授業担当者が判断するものではあるが、同時に学習者にも責任があることが強調された。また、「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」の初中等教育における具体例作成についての経緯について話が合った。特に、絵本の読み聞かせのリアルタイム配信の事例については、権利者の中でも意見が食い違うことがあったため長時間にわたったとのことだった。

次に、著作権利用に関する具体例から許諾交渉には手間が掛かること、その手間を軽減するために SARTRAS などの仕組みがあること、著作権法第35条の歴史についての解説があった。その中で、著作権を尊重する態度、著作

に対する敬意、著作物の利用者と著作者の間におけるコミュニケーションの重要性が強調されていた。

最後に、オンライン授業の4つのスタイル（オンデマンド型（非同期）教室授業、オンデマンド型（非同期）在宅授業、スタジオ型リアルタイム在宅授業、サテライト型遠隔合同授業）における形式の違いと、それに伴う著作権利用の許諾や補償金の有無に関する解説があった。

#### 【質疑応答】

以下の話題について質疑応答があった。

- ・学校教育活動、特に「特別活動（文化祭）」などでの著作権の扱い
- ・社会科教育で気をつけるべき点（国土地理院が出すような地図であったり、史資料（歴史資料）などがどの程度利用出来るのかなど）
- ・保護者の視聴を目的とする授業参観や学習発表会のオンライン視聴での著作権の扱い
- ・授業に活用できる YouTube などにアップされた動画のリンクを共有について
- ・オンライン授業における映画の著作権の扱い
- ・SARTRAS への保証金の額の算出を行なう際の「人数」の考え方

など

参考：授業目的公衆送信補償金制度の概要（文化庁）

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/92728101\\_03.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/92728101_03.pdf)

改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版（SARTRAS））

[https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin\\_20201221.pdf](https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin_20201221.pdf)

文責：八百幸 大（CIEC 小中高部会・早稲田大学高等学院）

### 【CIEC 第125回研究会】

#### 【開催概要】

テーマ：求められる新教育スタイルとポストコロナへの展望 —中国と日本の状況—

開催日：2021年3月27日（土） 14:00（日本時間） - 16:30（日本時間）

会場名：Zoomによる開催

共催：CIEC 小中高部会、中国・吉林省人工知能と教育融合創造センター

#### 【開催趣旨】

国際活動委員会主催の研究会が、「求められる新教育スタイルとポストコロナへの展望 —中国と日本の状況—」をテーマとして、2021年3月27日に行われました。これは、中国長春と日本を Web 会議システム zoom で結んだ国際研究会となり、発表は通訳（獨協大学 李先生）を介して行われました。このような形式の国際研究会は CIEC では初めてのことになると思われます。また、CIEC 小中高部会および中国吉林省人工知能と教育融合創造センターが共催となりました。総合司会は酪農学園大学の森夏節先生で、参加者は日中両国合わせて約50名になり盛会でした。発表は下記のように行われました。

\*研究会の主旨説明 早稲田大学高等学院 橘孝博 教諭

\* 大学における遠隔授業の現状

中国・東北師範大学 張海 教授

\* 北海道の文系私大における全学的な LMS 活用の取り組み

札幌学院大学 皆川雅章 教授

\* 教育安穩の維持と教師・生徒の安全の確立に関する取り組み

中国・長春第三十中学校 張晶 校長

\* 学びあいの教室文化をオンライン上で築き上げる取り組み

北海道月形町立月形中学校 紺谷正樹 教諭

(2021年4月より群馬大学専任講師)



はじめに、中国東北師範大学メディアサイエンス学部の張海先生から、新型コロナウイルス感染に対する大学の対策が紹介されました。新型コロナウイルスが中国全国に広がってから、中国教育部が迅速に春季学期を延期し、「休校でも、学びを止めない」という方針、及び「遠隔授業の指導ガイドライン」を出しました。遠隔授業では、「政府が主導」、「大学が主体」、「社会が参加」の三つのポイントが重要な役割を果たしたと指摘されました。例えば、政府が2.4万の国家オープンコースを公開し、企業が遠隔授業プラットフォームを無料で提供しました。また、メディアサイエンス学部の取り組みも示され、遠隔授業プラットフォームの選定、サポート体制、BP優良事例の共有、遠隔教育の基本原則、教育効果の評価など、具体的な取り組みが紹介されました。参加者からは、中国の無料プラットフォーム、教員構成などについて質問ができました。

2番目の発表者、皆川先生からは、2020年度に札幌学院大学で行われた全学的な遠隔授業の取り組みについて報告がなされました。Moodleを使ったLMSを展開するために、非常勤講師を含む全教員を対象とした利用講習会の開催、また、学生・教員に対する電話やオンラインでの相談受付体制の構築など苦労話しが披露されました。学生に対するアンケートの結果では、前期web授業の満足度は「満足」「やや満足」を合わせて52%でした。満足の中身は「都合の良い時間に受講できた(29%)」「通学時間が不要となった(24%)」が多く、不満の中身は「課題数が多かった(31%)」「授業が分かりにくかった(21%)」「他の学生との交流できなかった(18%)」などでした。今後の展望として、2つあるキャンパス間での講義の共有ができる、対面と遠隔の使い分けの工夫がなされることなどを挙げる事ができます。

3人目の中国・長春第三十中学校校長、張晶先生からは

「教育安穩の維持と教師・生徒の安全の確保に関する取り組み」という発表がなされました。コロナ隔離のもとで、リモート授業がどのように行われたかが具体的に説明されました。実際の科目と時間割の説明の後、みんなで一緒に漢詩を読む宿題や、コロナに関する作文コンテスト、絵画展など、勉強に飽きさせない工夫の紹介がありました。また、授業の合間に目の体操などを取り入れ、健康面にも気を配ったとのことでした。一方、教員は準備→講義→評価→指導というサイクルで活動を行い、授業終了後の翌朝8時までには反省文を提出しなければならず(評価)、さらにそれを受けてフィードバック(指導)がなされるとのことでした。このようにして授業の質の向上を図ったことなどが紹介されました。

最後に、紺谷先生から発表があり、北海道月形中学校での「学びあいの教室文化」について、数学科で行われた「前時の振り返り」「少人数のグループ学習」「振り返りでのインターネット学習」「はがき新聞での振り返り」が紹介されました。特に、自分の考えを残すことが理解度の確実な定着につながるとの位置づけで、ノート指導についても言及がありました。これらを踏まえて新型コロナ禍での学校での取り組みが説明されました。取り組み後の生徒アンケートでは、zoomの使用に関して「ダウンロードし機能を使いこなせる、不具合の時に一人で解決できる」という設問に「だいたいできる」との回答が多く、生徒たちは積極的に使いこなせたことが分かりました。一方、短所として「家庭のネット環境で授業がスムーズに進まなくなる」「つまずいた時に復活ができにくそう」などの声もありました。生徒と共に教員も、学ぶという指導観の醸成ができたとの報告でした。

以上の発表の後に、参加者との質疑応答を含めて、活発な議論がなされました。

## 【第1回 CIEC サタデーカフェ】

### 【開催概要】

開催日：2021年4月17日(土)20:00-21:00

会場：Zoomによるオンライン開催

プログラム

20:00 - 20:15 【話題提供】

スピーカー：平田 義隆(京都女子中学校高等学校)

テーマ：ICT活用実践事例集「まなびの旅」の制作について

20:15 - 21:00 【フロアとのフリーディスカッション】

CIEC小中高部会では、これまでの研究会とは違い、小規模でインフォーマルな気軽に参加できる会を立ち上げ、サタデーカフェと名付けました。Zoomによるオンライン開催とすることで、全国から気軽に参加できるものを毎月第3土曜日に開催しようとするものです。

第1回は「ICT活用実践事例集「まなびの旅」の制作について」と題して、京都女子中学校高等学校の平田義隆氏がスピーカーを務め、話題提供が行われました。事例集を



作るきっかけや、作成時の苦勞、特に力を入れた部分など、15分という短い時間ではありましたが、いろいろな話がなされました。その後は参加者によるフリーディスカッションとなりました。今回は事前に20名の申し込みがあり、当日は途中の出入りもありながら常時15名以上の参加がありました。最初にこの冊子の発案者やまとめ方などが質問され、平田氏が発案し、事例に上がっている授業のほとんどの写真を自分で撮影したエピソードから始まり、見える化したものを、多くの人で共有できることについての必要性が語られました。また、こういったマニュアルの作成や、生徒へのマニュアルなどにも話が及び、貴重な意見も数多く出されました。項目で記すと、アフターコロナ時代のICT教育や、ICTに関するトラブル対応、ロイロノートやMetamojiClassroomに代表される授業支援ソフトについて、タブレットでの写真撮影と実際に文字を書くことの両立、思考の大切さ、ポートフォリオの卒業後の管理など、話はずみません。多岐にわたっていろいろなご意見をお聞きすることができ、とても有意義な研究会となりました。

今回は、初めての試みで、どの様になるか心配な部分もありましたが、参加者の皆さんが積極的に話しにわり、とても和やかなムードで進めることができました。職場からの参加を始め、自宅での参加や、帰宅途中の電車の中からの参加もあり、研究会の新しい参加形態に気付かされる場面もありました。来月、第2回目の開催を予定し、準備を進めています。今回参加された方はともかく、会員、非会員問わず、興味のある方で集まり、旬のトピックについて討論できれば幸いです。この研究会が、現場の先生方にとって参加しやすく、有益なものになることを願っています。今回ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。(文責：平田義隆)



## 【第2回 CIEC サタデーカフェ】

### 【開催概要】

開催日：2021年5月15日(土)20:00-21:00

会場：Zoomによるオンライン開催

プログラム

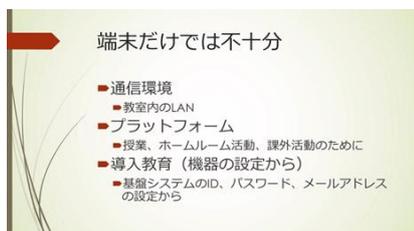
20:00 - 20:15 【話題提供】

スピーカー：八百幸 大(早稲田大学高等学院)

テーマ：「BYODへの長い道のり」

20:15 - 21:00 【フロアとのフリーディスカッション】

4月に第1回を開催し、好評だったCIECサタデーカフェですが、第2回は早



稲田大学高等学院の八百幸大氏がスピーカーを務め、話題提供を行っていただきました。(当初は同校の吉田賢史氏の予定でしたが、急遽変更となりました。)テーマは、「BYODへの長い道のり」でした。同中学校では、2021年度入学よりWindowsPC(Surface Pro7+)を1人1台導入することになりました。学校では保守的な雰囲気があり、こういった機器を導入することも、これまでにはなかなかスムーズには進まなかったようですが、コロナ禍による影響も大きく、それに後押しされる形で今回の導入に至ったそうです。検討委員会を11月に立ち上げて1月には機器の選定等を終え受験生やその保護者に説明しなければならないというタイトなスケジュールで進めつつも、学校から提示される条件をうまくクリアしながら最終的にSurfaceに落ち着いたようです。検討の際に重視したこととして、「大切なのは導入することではなくて、その機器を使って何をさせたいのか」であることや、「せっかく導入するならスペックの低いものですぐに使えなくなるようなことが起きないようにしたい」など、今後の活用の様子をイメージし、様々なところに気を配りながら導入機器を選定されたようです。しかし、端末の検討だけでは不十分で、1人1台の利用に耐えられるLAN環境の整備や、生徒のID・パスワードの管理等に始まる導入教育等の苦勞もされているようです。また今回は中学1年生への導入ですが、早速、高校生への導入についての検討も開始しなければならぬということでした。これらの話題をもとに、フリーディスカッションを行いました。そこでは様々な質問が出されました。実際にSurfaceを購入した金額はいくら位なのか、買い替え時期の想定、導入機器のスペックに関わる選定の仕方、機器を学校に持ち込む際のルールについて、機器の重さに関わる生徒の感触、既存教材とPCとの共存についてなど多岐にわたって質疑応答がなされました。また各校での現在の状況も知りたいという話に広がり、参加者の先生方の学校での状況などもいろいろと紹介されました。そこでクローズアップされたのは、国は全国一律で進めています、実際には都心部と郊外、また、公立学校と私立学校の間でも様々なことに差があることが皆さんの話から見えてきました。さらに、この流れを受けて、今後高校ではどのような対応をとるのかや、数年後に訪れる機器入れ替え時の負担者が自治体なのか、保護者なのか、さらに、小中高から大学への接続についての話にまで広がり、今回のカフェで様々な課題も見えてきました。

今回も15名の参加で、全参加者の方に発言いただけ、短い時間ではありましたが、中身の濃い研究会だったと思います。今後も気軽に参加できるインフォーマルな研究会として、旬な話題を取り上げていきたいと考えています。お忙しい中、話題提供いただいた八百幸氏を始め、参加者の方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。(文責：平田義隆)

